



この、糊のついた、 小さな紙 福田和也

貫って一番嬉しいものは？

と問われれば、付箋紙と答えますね。文具メーカーなどがたくさん出しているけれど、とりあえず、各種各色各サイズ、絶やさないようにしています。

本を読むのが商売の元で、同業者諸兄も同様でしょうが、とにかく本を読むのべつまくなしに読んでいます。

旅行にも、取材にも、酒場にも行くけれど、やはり、毎日、どこでも読んでいます。

本読みにも、いろいろなタイプがあつて、肘掛け椅子で木の机に向かわないと頭に入らないという人もいれば、どの図書館の閲覧室がいいとか、あの喫茶店のこの席じゃないと駄目だとか、猛者になると編集部に陣どらないと読むのも書く

のも進まない、缶詰部屋に放り込まれてはじめて眼が開くというような方も生息していると仄聞します。

その点、私は簡単。どこでもいい。

(あんまり暗いところとか、バッチイところは困るが……)

路面電車の中だろうが、下町の無闇に安い酒場だろうが、タクシーの中だろうが、税務署の待合室だろうが、場所も時間帯も問いません。

ただ、付箋紙さえあれば……そう、付箋がね。

以前は、そうではなかった。

前といっても十年位前かしら。付箋紙の助けを借りなくても、書物と対峙出来ました。

気になったところがあれば、頁の角を折る。

いよいよ、烈しく関心をかき立てられた時には、頁を縦に二つ折りにしてしまおう。

あるいは、鉛筆で書き込む。赤ペンで線を引く。

というような猛猛な対峙の仕方をしてきたし、それが当然の事であった。バラバラにしたって、読み倒さなければ、という勢いが本にたいしてあった。ま、寄る年波つて事でしょうかね……。

福田和也(ふくだ・かずや)●1960年、東京都生まれ。慶應義塾大学文学部仏文学専攻修士課程修了。現在、慶應義塾大学教授。文芸評論家として文壇・論壇で活躍中。93年、『日本の家郷』で三島由紀夫賞、96年、『甘美な人生』で平林たい子文学賞、2002年には『地ひらく 石原莞爾と昭和の夢』で山本七平賞を受賞。近著に、『現代人は救われ得るか』『昭和天皇』『男の教養』(共著)などがある。



仇討ちみたいなのに、本と対峙する、という心持がなくなってきたんですね。

こちらもよれよれですし、本もねえ、古いものばかりを読むようになると、いたわると云わないうまでも、傷めないようには、しよう、してあげたい、という気持ちになつてくる。

でも、何かしないと、読んだっていう気がしない。張り合いがない。

折るとか、書くはしないけれど……、付箋を貼る、それくらいは許して貰いたい、と。

昔の柔らかい紙の本には、ごく弱い糊の付箋を使うとかね。なかなか繊細なんですよ、こうみえても。

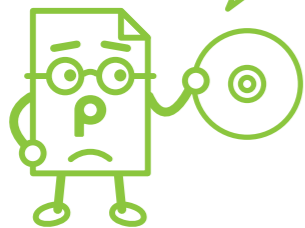
とにかくね、付箋ですよ。付箋がないと、本が読めない。

ただ、何度も読み返して、付箋貼つてると、しまいには手裏剣みたいに上下左右に付箋があつて、どこが大事だったのか、解らなくなつてしまふんですけどね。仕方ないです。

ペーパー君のつ・ぶ・や・き 活動

古紙リサイクルは、デリケート。

CDやビニールなどが混ざるだけで、うまくいかなくなるリサイクル。古紙の質を上げて、良い再生紙をつくるためには、これらのリサイクルをジャマしてしまう物(禁忌品)をきちんと取り除くことが大切なんです。レシートや写真などのように、紙製品の中にも、混ざるとリサイクルのジャマになる物があるので、ご注意ください。



紙のリサイクルをジャマする物(禁忌品)の一例

- ◎ナイロン袋 ◎CD
- ◎写真 ◎カーボン紙
- ◎レシート ◎圧着はがき
- ◎フィルム ◎クリップ
- ◎匂いのついた紙 等



紙のことをもっと伝えたい。詳しくは、<http://kamitsubu.com/>「ペーパー君のつ・ぶ・や・き」WEBサイトをご覧ください。

◆次回は12月30日・1月6日号です。

提供 ● 日本製紙連合会 <http://www.jpa.gr.jp>

photo: Takuya Sugiyama